

10月までは高温となる予報、品質低下に注意を

■ 7月24日発表の1カ月予報(7月26日～8月25日)によると、気温が平年より高い確率は70%となっており、直近の2週間予報でも8月6日までは猛暑日・熱帯夜が続く予報となっています。出穂後高温が続くと胴割米や白未熟米の発生による品質低下が懸念されます。

■ 7月22日発表の3カ月予報でも10月までは気温が平年より高い確率が60%以上となっており、一昨年、昨年のように晩生種でも品質低下が懸念されますので、適切な水管理で品質低下を防ぎましょう。

日付	過去の実況					1週目の予報(日別)					2週目の予報(5日間平均)				
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
甲府 (最高気温)	35.8	36.1	37.2	36.5	36.7	36.0	37.0	当日	38	37	36	36	37	37	
甲府 (最低気温)	25.9	25.6	25.3	24.0	26.3	25.9	25.6	当日	25	24	25	25	25	25	

かなり高い
高い
平年並
低い
かなり低い

(気象庁HP)

出穂から1週間程度は湛水管理・高温時は水交換を

■ 高温下での出穂～登熟期は、きめ細やかな水管理を行ってください。特に、最低気温が25℃以上の熱帯夜が続く場合は、白未熟米や胴割れ米が発生しやすくなるので注意してください。

- ① 出穂から1週間程度は、稲が最も水を必要としますので、湛水管理で水深3～5cmを保ってください。
- ② 出穂後1週間程度～出穂後30日の登熟期は、間断かん水(2日湛水、2日落水)とし、出穂後30日間は完全落水しないでください。
- ③ 登熟期が高温となる場合は、夕方の水交換やかけ流しにより水温、地温の上昇を抑えてください。出穂後30日を過ぎても高温が続く場合は、完全落水せずに収穫5日程度前までは走水程度の飽水管理とし、健全な登熟を促しましょう。

斑点米カメムシ・イネカメムシの防除徹底を

■ 斑点米カメムシ(出穂すると飛来するので2週間前までに畦畔の草刈り、水田内の除草をしてください)

- ① 本田への発生が認められた場合は、殺虫剤を穂揃期と乳熟初期(穂揃期7～10日後)の2回散布してください。
- ② 粒剤を使用する場合は出穂期～出穂7日後までとし、湛水状態(水深3cm程度)で田面に均一に散布し4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水・かけ流しはさけてください。

■ イネカメムシ(イネだけを加害する大型のカメムシ、薬剤散布で防除が必要)

不稔防止・低減のため出穂期から穂揃い期に、斑点米防止・低減のため穂揃い期の7～10日後にそれぞれ薬剤散布してください。粒剤は、5日ほど早く散布し上記②の水管理をしてください



イネカメムシ

NOSAI山梨 山梨県農業共済組合 <https://www.nosai-yamanashi.or.jp>

■中央支所 TEL:0553-22-5056
■南アルプス支所 TEL:055-282-0443
■本所 TEL:055-228-4711

■北部支所 TEL:0551-23-1111
■富士支所 TEL:0554-45-6611